

せいけん
詩集

第六十篇

作：近藤せいけん

「忘却」
ほうきやく

歳を経て 物忘れ増え
としへ ものわす ぶ

友人の名 物の名
ゆうじん な もの な

思い出せず 一人 苦笑
おも だ ひとり にがわらい

誰でも訪れる 人生の不思議
だれ おとす じんせい ふしぎ

記憶の力 衰え
きおく ちから おしとろ

「忘れていいんだよ
わす

忘れることも
わす

一つの幸福」
ひと こうふく

天の音が 聞こえる
てん こえ き

道を間違え ふと立ち止まる
みち まちが たど

どつちに 行こうかな
い

あたりを 見回す
みまわ

「どつちに 行つても
い

いいんだよ

まだ 日暮れには
ひぐ

十分 時があるよ」
じゅうぶん ととき

天の音が 聞こえる
てん こえ き

